

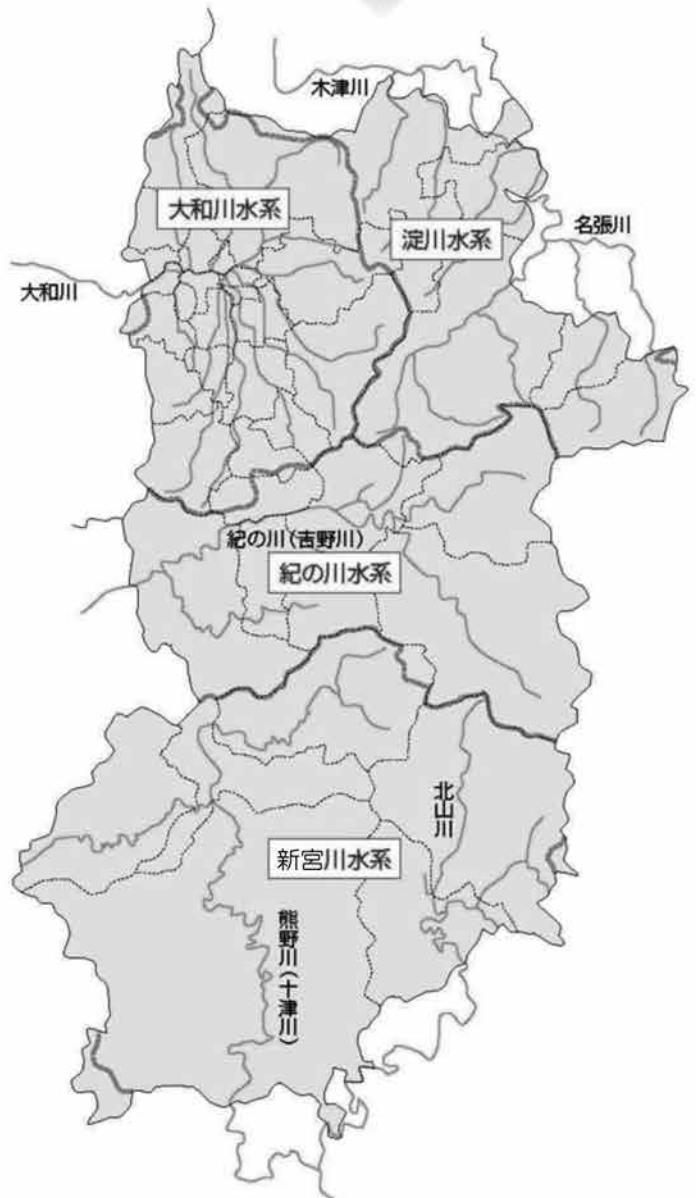
1. 足立直樹 (2010). 生物多様性経営 持続可能な資源戦略. 日本経済新聞出版社.
2. 枝廣淳子 (2011). 私たちにたいせつな生物多様性のはなし. かんき出版.
3. 外来種影響・対策研究会 (監) (2011). 河川における外来種対策の考え方とその事例【改訂版】
－主な侵略的外来種の影響と対策－. リバーフロント整備センター.
4. Hanson, C., Ranganathan, J., Iceland, C. and Finisdore, J. 足立直樹・石田聖二 (監訳) (2008).
企業のための生態系サービス評価 (E S R) 生態系の変化から生じるビジネスリスクと
チャンスを見つけるためのガイドライン 第1.0版. 日立化成工業.
5. 林希一郎 (編著) (2010). 生物多様性・生態系と経済の基礎知識. 中央法規出版.
6. 井田徹治 (2010). 生物多様性とは何か. 岩波書店.
7. 環境省 (編) (2010). 生物多様性国家戦略2010.
8. 環境省 (編) (2012). 生物多様性国家戦略2012-2020－豊かな自然共生社会の実現に向け
たロードマップ－.
9. 環境省近畿地方環境事務所 (2009). 大台ヶ原自然再生推進計画－第2期－.
10. 環境省生物多様性総合評価検討委員会 (2010). 生物多様性総合評価報告書. 環境省自然環
境局自然環境計画課生物多様性地球戦略企画室.
11. 片岡博行・西本孝 (2004). 岡山県における外来食虫植物の侵入状況. 岡山県自然保護セン
ター研究報告, (12) : 31-37.
12. 鬼頭秀一 (編) (1999). 環境の豊かさをもとめて 理念と運動 講座 人間と環境11. 昭和堂.
13. 前迫ゆり (2009). 照葉樹林に拡大する外来樹木とシカの関係. 植生情報, (13) : 83-86.
14. Maesako, Y., Nanami, S. and Kanzaki, M. (2007). Spatial distribution of two invasive
alien species, *Podocarpus nagi* and *Sapium sebiferum*, spreading in a warm-temperate
evergreen forest of the Kasugayama Forest Reserve, Japan. *Vegetation Science*, 24:103-
112.
15. 森本範正 (2012). 奈良県樹木分布誌.
16. 盛山正仁 (2010). 生物多様性100問. 木楽舎.
17. 奈良県希少野生動植物の保護のあり方に関する検討会 (2007). 奈良県における希少野生動
植物の保護のあり方に関する提言.
18. 奈良県レッドデータブック策定委員会 (編) (2006). 大切にしたい奈良県の野生動植物－
奈良県版レッドデータブック－脊椎動物編. 奈良県農林部森林保全課.
19. 奈良県レッドデータブック策定委員会 (編) (2008). 大切にしたい奈良県の野生動植物－
奈良県版レッドデータブック－植物・昆虫類編. 奈良県農林部森林保全課.
20. 奈良県生活環境部環境管理課 (編) (1998). 奈良県環境資源データブック－奈良県の動物、
植物、地形・地質、文化財等－. 奈良県生活環境部環境管理課.
21. 奈良県史編集委員会 (編) (1990). 奈良県史 第2巻 動物・植物. 名著出版.
22. 奈良商工会議所 (編) (2007). 奈良まほろばソムリエ検定 公式テキストブック 奈良大
和路の歴史と文化 改訂版. 山と溪谷社.
23. 日本生態学会 (編) (2002). 外来種ハンドブック. 地人書館.
24. 農林水産省 (2007). 農林水産省生物多様性戦略.
25. 農林水産省 (2012). 農林水産省生物多様性戦略.
26. レッドデータブック近畿研究会 (編著) (2001). 改訂・近畿地方の保護上重要な植物－レッ
ドデータブック近畿2001－. 平岡環境科学研究所.
27. 生物多様性政策研究会 (編) (2002). 生物多様性キーワード事典. 中央法規出版.
28. 竹中明夫 (2002). 生態系機能と生態系サービス. 国立環境研究所ニュース, 21 (3) : 7-8.

29. 鷺谷いづみ (2010). 生物多様性 入門. 岩波書店.
30. 湯本貴和・松田裕之 (編著) (2006). 世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学. 文一総合出版.

奈良県の地形



奈良県の水系



生物多様性なら戦略 ～豊かな自然環境を未来の子どもたちに～ 全体構成

第Ⅰ章 戦略策定にあたって

1. 戦略策定の背景

- (1) 生物多様性保全に関する世界と日本の動き
- (2) 生物多様性保全に関する奈良県の動き
- (3) 「生物多様性なら戦略」の位置づけ

2. 生物多様性とは

- (1) 生態系の多様性
- (2) 種(在来種)の多様性
- (3) 種内(遺伝子)の多様性

3. 生物多様性の重要性

- (1) 供給サービス(くらしの基礎)
- (2) 調整サービス(生物多様性に守られる私たちのくらし)
- (3) 文化的サービス(生きものと文化の多様性)
- (4) 基盤サービス(生きものが生み出す大気と水)

4. 生物多様性の危機

- (1) 第1の危機(開発や捕獲・採取による危機)
- (2) 第2の危機(自然に対する働きかけの縮小による危機)
- (3) 第3の危機(人間により持ち込まれたものによる危機)
- (4) 第4の危機(地球温暖化による危機)

第Ⅱ章 奈良県の現況

1. 奈良県の地形・地質および気候

- (1) 地形・地質
- (2) 気候

2. 奈良県の現状と課題

- (1) 野生動植物
- (2) 主要な生態系
- (3) 外来種
- (4) 奈良県の風土・文化や美しい景観をつくり出してきた生物多様性
- (5) 奈良県のニホンジカ
- (6) 各主体の取組

第Ⅲ章 基本方針と目標

1. 基本方針(私たちの進むべき方向)

- (1) 長期的視野から生物多様性の重要性の普及啓発などに努めます。
- (2) 人と自然のつながりの輪を大切にします。
- (3) さまざまな人々との連携・協働を図ります。
- (4) 科学的知見の集積による生物多様性の保全に努めます。

2. 目標

- (1) 第1の目標 生物多様性の保全と再生
- (2) 第2の目標 生態系サービスの持続可能な利用
- (3) 第3の目標 生物多様性を活用した地域の活性化
- (4) 第4の目標 生物多様性を支える基盤づくり

3. 期間

- ◆ 短期目標 2020年まで ◆ 中長期目標 2050年まで

第Ⅳ章 行動計画

第1の目標 ▶ 生物多様性の保全と再生

- (1) 重要地域の保全
- (2) 野生動植物の保護と管理
- (3) 森林、里地里山、河川・ため池、都市部における生物多様性の保全
- (4) 水循環の再生
- (5) 生態系ネットワークの形成
- (6) 地球温暖化への対応

第3の目標 ▶ 生物多様性を活用した地域の活性化

- (1) 自然観察会・生きもの調査など
- (2) 希少野生動植物の生息・生育地保全など
- (3) 生物多様性を活用した見所づくり
- (4) 自然と文化を学びながら地域再生
- (5) エコツーリズムやグリーン・ツーリズムの推進

第2の目標 ▶ 生態系サービスの持続可能な利用

- (1) 農林水産業における取組
- (2) 公共事業・地域開発・企業活動における生物多様性への配慮

第4の目標 ▶ 生物多様性を支える基盤づくり

- (1) 県民意識の醸成
- (2) 生物多様性の恵みにふれる機会の拡大
- (3) 参画、連携、協働の充実
- (4) 生物多様性センターの機能を持つ拠点の設置

第Ⅴ章 推進体制

1. 各主体に求められる役割

- (1) 県の役割
- (2) 国・近隣府県・市町村の役割
- (3) 県民の役割
- (4) 団体(NPO法人など)の役割
- (5) 企業の役割
- (6) 大学・自然系博物館などの教育・研究機関の役割

2. 各主体との連携・協働

- (1) 国・近隣府県・市町村との連携・協働
- (2) 県民との連携・協働
- (3) 団体(NPO法人など)との連携・協働
- (4) 企業との連携・協働
- (5) 大学・自然系博物館などの教育・研究機関との連携・協働

3. 行動計画の点検・評価など

- (1) 行動計画の点検と評価
- (2) 調査、計画の見直しなど
- (3) 目標指標の達成

《表紙の写真》

<p>ニッポンバラタナゴ里親校である奈良市立鼓阪小学校において、近畿大学農学部が実施した観察会の様子</p>	<p>ニッポンバラタナゴ (特定希少野生動植物)</p>
<p>ヒメタイコウチ (特定希少野生動植物)</p>	<p>ヒメタイコウチを飼育している五條市立阪合部小学校を対象に、五條のヒメタイコウチを守る会が実施した観察会の様子</p>